会　議　録

１　会議名

令和４年度　第６回金谷区地域協議会

２　報告（公開・非公開の別）

（１）地域協議会会長会議について（公開）

３　議題（公開・非公開の別）

（１）金谷区の地域活性化について（公開）

４　開催日時

令和４年８月２４日（水）　午後６時から午後７時１５分まで

５　開催場所

福祉交流プラザ　第１会議室

６　傍聴人の数

３人

７　非公開の理由

―

８　出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委　員：村田敏昭（会長）、川住健作（副会長）、山井広子（副会長）
石川美惠子、大瀧幸治、神崎 淑、小林雅史、髙橋敏光、髙橋　誠
髙宮宏一、長 和子、土屋博幸、平良木美佐江、益田侑季
（欠席２人）

・事務局：自治・地域振興課　佐藤参事（滝澤センター長代理）
南部まちづくりセンター　小池係長、難波主任

９　発言の内容

【難波主任】

・加藤委員、土屋委員、山本委員を除く１３人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第８条第２項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

・同条例第８条第１項の規定により、議長は会長が務めることを報告。

【村田会長】

・会議の開会を宣言

・会議録の確認：神崎委員と大瀧委員に依頼

次第２「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤参事】

・滝澤センター長が不在のため、代理を務めることを報告

・配布資料の確認

・次第に基づき、議題の確認

【村田会長】

・「議題等の確認」について質疑等を求めるがなし。

― 次第３報告（１）地域協議会会長会議について ―

【村田会長】

次に第３報告（１）「地域協議会会長会議について」に入る。

８月２２日に私が出席した地域協議会会長会議の内容について、報告する。

今週の月曜日、８月２２日の午後２時から上越観光物産センターにて、２８区の地域協議会会長や副会長が出席し開催された。

金谷区からは会長である私が出席したため、概要や感想について、委員に案内したいと思う。そのあとで事務局より詳細について、説明がある。

２時少し前より、中川幹太市長のもとで会議が始まり、約１時間３５分の説明・打合せであった。

私にはまだまだ勉強不足であり、令和５年度に向けての対応方法等をまだ理解できていないと痛感した。

会長会議の中で、中川市長が言われたことを取りまとめてあるため、報告する。

中川市長は挨拶の中で、要約すると三つのことを言っていた。

まず一つ目。地域の皆さんが、地域のことを考えて、自分たちの予算を決めて実行していくことが大切だと思っていると言っていた。

二つ目。地域独自の予算（案）は細かな点をさらに整理する必要があり、会長会議での意見も参考にしながら、令和５年度の予算編成に向けて、内容を確定していきたいと言っていた。

三つ目。会長会議に出席している地域協議会の会長の知識並びに経験をぜひ生かしてほしいと言っていた。

以上が市長の挨拶の要約である。

挨拶の後、２８区の会長などから質問があった。私の記録では、１０人程の会長が質問していた。中には２回質問をした会長もいた。私は残念ながら、質問することができず、黙って聞いていた。

市長が繰り返して言っていたことは、令和５年度、あるいは令和６年度以降も、「この事業についての予算編成は市が行う」ということを強く言っていた。今まで、地域でやりたいことが実現していないのであれば、地域独自の予算でしていきたい、ということも強く言っていた。

そして、もしも地域協議会でこの事業を提案できないとしても、地域団体や総合事務所、いわゆる行政等が提案できると口添えされていた。

いろいろな質問があった中で、ある区の会長から、地域協議会も地域独自の予算を提案できると思うが、予算化するためには積み上げも必要でありハードルが高すぎるのではないか、という発言があった。それに対する市長の回答は、何度も言うように予算編成は行政が行う、そして地域協議会にはいつも言っている三つのことをお願いしたいと言っていた。

一つ目は、地域協議会の委員には地域の声を聞いてほしい、二つ目は、地域協議会の委員は地域の宝を探してほしい、三つ目は、地域のビジョンを地域の人たちと一緒に作ってほしい、といった願いを地域協議会に投げかけられた。

資料にあることが基本の骨子だが、これを理解することは、勉強していかなければできないと何度も思った。

そして、もう一つ参考になる点があった。

ある区の会長より、地域活動支援事業は予算枠があったため、やりやすかった。だが令和５年度に向けた地域独自の予算では決められておらず上限もない。そうい

う中で、自分たちは一生懸命考えていかなければ、できないのではないか、本当に地域協議会にできるのか。あるいはそういう人材がいるのか、ということを自治・地域振興課長に投げかけた。課長は、人材の話は大事なことで、行政も連携して連絡を取り合いながらやっていきたい、その中で、人材育成も当然備わっていくだろう、と上手に答弁された。全体的には、理解している地域協議会会長もいると思うが、分からない、まだ難しいと思っている会長もいると思う。私の隣の会長もそのように言っていた。

次に、この会議で説明のあった資料№.１「『(仮称) 地域独自の予算』の概要 (案) について」、事務局より説明を求める。

【小池係長】

・資料№.１により説明

【村田会長】

ただ今の報告、説明について、質疑を求める。

【石川委員】

「予算の上限額は設けない」とあるが、どこら辺までのことなのか。

地域活動支援事業は、金谷区の配分額が八百何十万円となっており、それを各提案団体に分割してした。

上限額を設けないといっても、上限額とはどれくらいの上限が可能なのか。それも関係ないのか。

【佐藤参事】

別の話になってしまうが、今回、これだけ文字量の多い資料を事前配布したとはいえ、しっかりとした説明は今回が初回だということもあり、限られた時間の中で一気に意見をいただくということは、なかなか難しいかと思っている。

大変恐縮だが、本日いただいた意見はしっかりと聞いていくが、また持ち帰った中で疑問に思うところや意見等があれば、明日以降、事務局に意見を寄せてもらえれば、自治・地域振興課にて必ず共有させていただくことを、まずもってご承知おきいただければと思う。

今ほどの質問にあった「上限額の設定」については、制度設計をしていく中で議

論はあったが、まずもって、今の地域活動支援事業を見た中で、例えば、配分額の捉え方として、配分額があると使い切ろう・使い切らなければならないという動向や、本当にやりたい事業の事業費を積み上げていったときに、逆に配分額がキャップ・足かせになってしまうといったケースも考えられるということから、この度は、「上限額はあえて設定しない」ということで、一旦整理したところである。

【石川委員】

提案について、例えば、件数はいくつあってもよい、といったことがどこかに記載されていたかと思う。それで１件当たりの上限額もないのであれば、いくつかの事業が相当な金額になったとしても考えていただけるということなのか。

【佐藤参事】

地域独自の予算の仕組みの中で整理した時に、上限額は設けない中で、提案に基づいて予算要求、予算編成を行っていくわけである。当然、市の予算は青天井というわけではないため、やはり全体の予算編成・見合いの中で、やはりどこかで線は引いていかなければいけないと思う。だが、金額や件数に制限を設けず、自由な発想の基に、まずは提案をいただきたいというところに軸足を置いた設計となっている。

【平良木委員】

この場で質問してよいのか分からないが、前回の会議では、去年の地域活動支援事業の中から候補をあげ、それらの団体の意向を聞いてから元気事業に形成できるのかということだったが、この間、中止の連絡があり、その理由が資料№.１の３ページに記載されていることなのだと思った。

それを受けて、私たちはこれまで話し合ってきたことを、今後、どのようにしていけばよいのか。これまで地域活動支援事業を活用していた人たちは、今後も補助金がもらえるということは、地域協議会は今後、何をしていけばよいのか。

【佐藤参事】

これまで地域活動支援事業を活用して実施してきた事業で、令和５年度も継続して実施したい事業について、地域協議会で議論して「元気事業」という既存の制度に提案いただくことをお願いしてきた経緯があろうかと思う。

地域独自の予算が、今はまだ仮の案ではあるが、令和５年度の当初予算要求に間に合うよう、結果として前倒しできたことにより、今、行っている元気事業を通じて、地域活動支援事業で実施してきた取り組みを継続させるということではなく、この新たな仕組みに乗っかると、地域の団体が直接、まちづくりセンターを通じて市に提案を上げることができるという流れになる。そのため、平良木委員の今ほどの発言にあったように、その点について、地域協議会での議論は、一旦、やる必要がなくなるということになる。

ただ、もう一つお願いしている事柄がある。この後の議題にもあるかと思うが、地域活性化の方向性については、依然として地域協議会に作成を呼びかけている大きな仕事の一つであるため、そこは審議を継続してほしいと考えている。

【土屋委員】

会議に遅れて出席したため、ピントのずれた質問になるかもしれない。これまで話し合ってきた内容とは、全く違う質問である。

私は関わっていないため、私が質問するのも変だが、金谷区で一番目立つというか、あってほしいと思い、これまでの議論の中にもあったが、ヨーデル金谷について、市でどのような扱いであったか忘れてしまったが、「何年後かにどうのこうの」という話があったかと思う。例えば、ヨーデル金谷でこの元気事業を利用して活性化したい、という話が出てきた場合、どう対応するのか。

次に、おそらく、私は申請することはないが、昨今の社会情勢の中で、子どもが減少しているため学校で部活ができない分、今後はクラブ活動を重点にやっていく、ということがある。金谷区でもこれまでに、地域活動支援事業でバスケットボール・野球・バレーボール等の申請が出てきたことがあるが、どちらかというと、「道具がほしい」といったことであった。

受け皿としてのクラブ活動として、元気事業に申請したいと言ってきた場合、どのように対応するのか。

私は直接、関係していないが、せっかくなので聞いてみたいと思った。

【佐藤参事】

一つ目の、ヨーデル金谷の今後の利活用についてである。

現行の制度で、前回の会議で議論いただいた「元気事業」という仕組みは、地域独自の予算が成立すれば、令和５年度以降はなくなる。なくなるが、今まさに検討いただいているとおり、「元気事業」でやろうとしている提案の中で、地域の中に主体があって、その取組を地域ぐるみで盛り上げていきたい、という取組であれば、まさしく今回の地域独自の予算で、補助・支援という形になるのか、委託というやり方になるのか、市の事業として事業化していくのか、といったことはあるが、地域独自の予算の対象となる取組になろうかと思う。

二つ目のクラブ活動について、私が理解できていないのかもしれないが、例えば、地域で文化系のクラブやスポーツ系のクラブを実施できるような、受け皿となる組織を地域の中で育てていこう、という感じか。

【土屋委員】

これまで部活動は教職員が見ていたが、教職員の負担を少なくするということもあると思う。例えば、部活をやりたくても一人、二人しかいない場合、その受け皿となるのが、例えば、地域のバレーボールの活動だと、クラブ活動になるが、ある面、クラブ活動は民間になるため、民間も「この金額ではとても運営はできない」というときに、「元気事業を活用するとよい」というアドバイスをしても良いのか否か。

【佐藤参事】

今の話については、私自身も懸案として持っていたため、教育委員会に確認した。いわゆる「部活動の地域化」について、現在、どのような動きをしているのか、まさに私も今回の事業の対象になり得るのか否か、について確認をしたかったため、確認した経過がある。

学校教育課が所管になるため、私が先走って踏み込んだことを言えるわけではないが、そこの動きはまだ、前広な時間の中でやっていくということで、今、直ちにどうこう、ということはまだ描ききれていないということである。

ただ、全国的な流れでいくと、おそらく地域の中にコーディネーターのような人を誰か位置付けて、「できる人」と「ニーズ」をうまく橋渡しさせていく機能が必要だと、全国的にも言われている。そのため、今後はそのような仕組みづくりがなさ

れていくのかもしれない。

もしも、そういった提案が上がってきたあかつきには、改めて、地域の中で先行して取り組むべきなのか、あるいは少し待ったほうがよいのか、行政側から提案した方にお返しして、伴走をしながら進めていきたいと思っている。

【髙橋敏光委員】

資料№.１の３番目に「(仮称) 地域独自の予算のポイント」とある。記載内容を見ると、なんだか子ども騙しのようなことしか書かれていない。そこら辺で地元の野菜を販売して幾らになるのか。そういった運営をしても、個人的ならまだしも、団体を組んでするとなかなか難しいことである。

また、現在、市で運営している施設の見直しを行っていると思う。先ほどのヨーデル金谷も含まれていると思う。全てを取り潰して「今度はこういうことを地域でやってください」という代償ではないかと私は思っている。そういった市民サービスが上越市にはなくなってきた。もう、大分少なくなってきていると思う。

そして、今ある施設の予算を削って、「これでやってくれ」という施設もたくさんある。そのようにやっていれば、将来的には施設で働く人も少なくなり、事業もうまくいかなくなり、最後はなくなっていく。そして新たにこのような「地域独自の予算」でいろいろと行ってほしいというのは、どうしても個人的には腑に落ちない。市の考えがおかしいように思う。

今ある施設を活用して活性化しているものまで予算を減らし、市では続けていけないため廃止するといった話ばかりであり、それで地域でもって細かいことをやってくれといっても、話が合わないように思っている。

例えば、地域独自の予算、このようなものはなくても良いと思う。やめてもらってもよい。このようなおもちゃのようなことは。資料の事例の中を読んでほしい。大した事業はあるか。「食事を作って売ってください」「野菜を取って売ってください」といったものばかりである。そのような事業ではなく、上越市を活性化するためには、やはり、今まであった施設を大事に使い、その施設のやり方自体を変えていって、地元の活性化につながるような方向に考えてもらいたいと思う。例えば、私が今考えていることは、ヨーデル金谷のレストランがあるのだから、それを失く

すこと自体、市の財産を失くすようなものである。予算だけの話でやっているのではなく、不足の分の支援というのは、財政といったら、やはり、それを持ってくることが行政であって、市民に考えさせることはおかしい。ここは合わないからやめる、ここはやめる、ではない。活性化しなければいけないという話と、逆のことをやっている。その代わりにこれをやってください、といった格好であり、どうも私は腑に落ちない。別にここで「ああだ、こうだ」といっても、市長自体の考えも、行き当たりばったりで、言い訳みたいなことから、このようなものを作るのでは、どうしても反発したくなるような思いでいる。特に文句は言わないが、市政自体を変えていかなければ、このような事業で自分たちが納得するようなことは絶対にしたくないと思っている。

これは感想だけであるため、答えは要らない。

【佐藤参事】

本来、ここできちんと答えることができればよいが、私のレベルではなかなか難しいところもある。

中川市長も、今ある施設を丁寧に維持して活用していくとの考えがあり、私も本人から何回も聞いている。やはり、そこは基本的な考え方としてあろうかと思う。

今ほど、個別にヨーデル金谷の話も出ていたが、その施設をどうしていくのか、というところは、改めてしっかりと担当につないでいきたいと思う。そして、そこと今回の取組がバラバラであってよいわけがないため、足並みが揃うよう、同じ方向を向きながらやっていけるように、口だけではなく、庁内の中で課題を共有しながらしっかりとやっていきたいと思う。

また、資料に記載されている取組事例については、人様、よそ様で取組まれていることであるため、これについての評価はできない。私たちはこれが一つの目安になるかと思い、挙げているものである。参考にできるところは、参考にしていただきたいと思う。全く新しい取組が出てくることも、市長をはじめ、期待しているところである。

この取組については、このようなかたちで進めて行きたいと考えている。

今ほどの話については、持ち帰って内部でしっかりと共有したいと思う。

【髙橋敏光委員】

例えば、「地域の宝を資源にして活用してほしい」とこれは立派な言葉であり、たいしたものだと思っている。だが、市で行った仕事とは何か。

吉川にある「杜氏の郷」を売ってしまったと思う。あのような歴史のある施設を市で手放すのであれば、ジムリーナのような経費のかかるものを売ればよいと思う。いらないと思う。黙ってこのようにしていると、全国で一番「住みにくいまち」になる。子育ても駄目、市民サービスも無い、冬になれば除雪も困っている。そして、「地域の宝」とうまいことをいって「活用してくれ」といっても、あのような立派な施設を無くすこと自体、市自体が行っていないことを、市民にやれといっても難しい。

その財源を確保するための、しっかりとした政策を持ってやってもらわなければいけないと私は考えている。

【村田会長】

まだ行政にとっては「概要（案）」だと、最初から言っていることである。会長会議で出た意見や、本日出た意見等を持ち帰っていただき、検討を続けるという状況かと思う。

【石川委員】

今ほどの髙橋敏光委員の意見はごもっともだと私も思っている。

やはり、９月の予算編成に間に合うか否かといったレベルではないと思う。本気を出して考えなければ、地域資源を活用してというが、私も山に住んでおり、山は地域の宝物である。だけどこれをどうするのかといわれても、とにかく人手がいる。その人の年収分くらいのものは、それが出てこなければ、どうしようもないと思う。それをやるというような、今、この「概要（案）」の資料に「対象とする取組」として例示されているような取組には、とてもではないが追いつかない感じがする。やはり、真剣に考えないと無理だと思う。答えが出ないため申し訳ないが、簡単には考えられないというイメージである。

【佐藤参事】

取組のイメージとして例示したものが、かえって、どのように映っているのかと

思いながら聞いていた。

まず、必ずしも事例に則して取組んでほしい、といっているものではなく、あくまでも考えるヒントとしてもらえればと思う。一つ一つを見ていくと、意見にあったように、大変な取組もあろうかと思う。だが、「地域のやる気」というか「我こそは」という発意があれば、それを事務局も一緒になって練り上げていこうというものである。そういったものを、この制度を活用してどんどん伸ばして広げていきたいと考えていることを理解いただければと思う。

【村田会長】

意見を踏まえたうえで、行政から協議、検討いただきたいと思う。

【土屋委員】

行政から検討していただきたいこととして、私が最初に地域協議会委員になったとき、最初から地域活動支援事業の話であった。そのため、それを覚えるだけでも大変だったが、やっと慣れてきたと思った矢先にこの話である。

何を言いたいかというと、なぜ、上越市の市議会議員と、地域協議会委員が同じ任期で、同じ時期に変わったのか。今の市議会議員がどうということではないが、おそらく地域協議会委員も、このままの人数と顔ぶれで次の４年間も頑張りましょう、ということであればよいと思うが、資料を見ると「令和５年度から継続していく取組は、８年度に見直す」と記載されている。「なぜ８年なのか」というと、市長選挙があるからかと思ったりもする。この内容はとにかく、どのような人がなろうと継続し、２年後、３年後、４年後もやっていく、ということを言われると、議論していても力が入るが、毎回、毎回どこかで見直すという話になると、「次の地域協議会委員はどうしようか」と思ってしまう。やはり、予算がどうのこうの、ということは、税金を使うわけであるため、地域協議会委員としても受けとめる内容が重い。そのため、そういったことを行政として検討してくれるのかどうかと思い、質問した。

【佐藤参事】

地域活動支援事業については、令和４年度末をもって廃止することで考えている。地域協議会委員においては、この間、地域活動支援事業の審査が業務の根幹であっ

たかもしれない。ただ今後は、地域協議会で審査・決定するというプロセスが外れることになる。その結果として、自主的審議をする中で地域を活性化する方向性、ひいてはその議論の先に、例えば、市に対して意見書を提出していただく、あるいは地域協議会として地域独自の予算を活用して事業提案していただく、といった方向性になろうかと思う。

予算を取り扱うことについてプレッシャーも感じていたということだが、その点については心苦しいながらも、本当に感謝申し上げたいと思う。その点については、令和５年度以降は想定しなくてよい。地域独自の予算が成案になったあかつきには、そこはなくなると承知いただければと思う。

【村田会長】

本日出た意見を踏まえ、次に反映してほしいと思う。

以上で次第３報告（１）「地域協議会会長会議について」を終了する。

― 次第４　（１）金谷区の地域活性化について ―

【村田会長】

次に次第４ 議題（１）「金谷区の地域活性化について」に入る。

資料６を確認してほしい。「地域活性化の方向性の作成について」ということで、前回会議の当日配布資料№.１の２ページ目以降に記載されている金谷区の地域活性化に結び付くと考えられるアイデアやヒントについて、まとめた資料がある。これを基に、さらに議論を重ねて、地域活性化へ向けていくということが、これからの話になろうかと思う。

委員の意見を聞き、今後の議論につなげていきたいと思っている。

これが決定ではなく、意見をそのまま記載した資料になる。

他の委員が出したアイデアやヒントについて、何か意見等あるか。

（発言なし）

私より質問する。

委員Ｆの「レストラン ヨーデル金谷の近傍にクラフトビール工房を」という、大

きなアイデアがあるが、これはどのくらいの費用がかかるのか。こういったものは、令和６年度以降につながっていく事業になるのかと思う。このアイデアは髙橋敏光委員が出したものだと承知している。予算の上限がない中でどのくらいの規模なのか、逆に行政が考えていくべきことにもつながると思う。実状を教えてほしい。

【髙橋敏光委員】

レストランヨーデル金谷の池側に、はっきり言って申し訳ないが、以前の話をすると、この話は１回目ではなく、これで２回目なのである。前々々の市長の時にこの提案が出て、市の農林水産課に図面や見積等が全て残っていると思うが、私は金額的なものははっきりと分からない。まず、大台に乗るだろうと思っている。そして今、ヨーデル金谷自体も３年後には民間に渡って、民間の人もよい人が来ればよいが、もしも引き受け手がなければ廃止ということになるとの条件である。これを復活してずっと継続してもらうためにも、クラフトビール工房は要ると思う。

この地域にはたくさんの日本酒の製造会社があるが、ビールに関しては、細かいものが二つほど、自家製のような格好ではあるが、それを作って、今、青年会議所もそういったことを考えていると思うが、できればそこと一緒にできればよいと思っている。青年会議所は海岸端の田んぼが空いている所に大麦をたくさん植え、この間、収穫したとのことである。将来的には、クラフトビールを作りたいと意見を出しているようである。できればそこと連携し、こちらに持ってくればよいと考えている。

活気があるか否か、活性化になっているのかは分からないが、いずれにしても、あのレストランは私たちの大事な寄り場でもあり、たくさんの人が利用しているため、なくすことは寂しいと思っている。しかも、金谷地区公民館を元金子ブライダルの結婚式場跡地に建てるとのことで、現在、設計に入っているところである。そういったことを考えると、絶対になくしたくないと思っている。

地区公民館の間取り等の要望は、まだ１回も打ち合わせしていないが、できれば金谷地区公民館にも地元野菜や収穫したもの、栽培したもの等を販売できるような場所も、公民館とつなげて考えてもらえればと思い、希望している。

クラフトビールだけではなく、ヨーデル金谷を残す気持ちも持って、お互いに想

像して、多少でも利益があるような格好になればよいと思っている。

また、そのような施設が上越市内にはあまりないため、そういったものができれば、上越市内で初めてクラフトビールの工房ということで宣伝にもなり、利用者も多くなると思うため、期待しているところである。

【村田会長】

以上のように、各委員の熱い思いが前回会議の当日配布資料№１に記載されている、ＡからＩまでのヒントやアイデアになる。

今後、これを基に、あるいは改めて考えていただいたことを結びつけて、さらなる地域活性化へと向けて議論を続けていただきたいと考えている。

本日は、このように取りまとめたことを改めて見ていただくことと同時に、次につなげる資料だということで、了解いただきたいと思う。

【土屋委員】

すごくよいアイデアだと思う。ただ、村田会長の発言にあったように、「どのくらい費用がかかるのか」ということを、どこかで、誰かが教えてもらえるとよいと思う。私が聞いたからといって、できるわけではないが、具体的に話が進むとありがたいと思う。

【村田会長】

委員の意見を聞き、今後の議論につなげていきたいと思っている。

以上で次第４ 議題（１）「金谷区の地域活性化について」を終了する。

― 次第５ その他 ―

【村田会長】

次に次第５「その他」に入る。

前回の会議でも案内したが、当協議会が自主的審議事項で検討してきた防災機能強化を盛り込んだ、大貫４町内合同避難訓練が８月２８日（日）に高田西小学校にて実施される。

この訓練で得た経験を今後の自主的審議へ生かしていくため、当日の午後１時

３０分から金谷区内の町内会長を招いて見学会を行う予定としている。現在のところ、金谷区内の１０の町内会から参加いただけると連絡をいただいている。

見学いただいた町内会には、アンケートへの協力を願い、今後の自主的審議の参考とする予定としている。当日、都合のつく委員もぜひ足を運んでもらえるよう、案内する。今後の自主的審議を見据えながら、参加いただくよう願う。

以上で次第５「その他」を終了する。

―　次第６　事務連絡　―

【村田会長】

次第６「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【佐藤参事】

・次回協議会：９月２８日（水）午後６時から　福祉交流プラザ

・次々回協議会：１０月２６日（水）午後６時から　福祉交流プラザ

・当日配布資料：令和３年度地域活動支援事業 事例集について（ご案内）

【村田会長】

・会議の閉会を宣言

１０　問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課　南部まちづくりセンター

TEL　：０２５－５２２－８８３１（直通）

E-mail：nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

１１　その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。